

# 出張藍染め体験教室のご案内

体育館や図工室、安全な場所と水場をご用意して頂ければ、藍染めハンカチを作ることが可能です。お気軽に伝統工芸を学べる環境を提案致します。

## 《当日のセッティング》

弊店にてブルーシート等で養生し、染料バケツと水洗バケツを人数に応じて準備致します。水場のご提供をお願い致します。



## 《所要時間》

●40～60分（準備時間除く、児童数・現場により変更）

例）授業コマに組み込む場合

1 時限 1 クラス（約 40 名）1 度に 4 名ずつ進行可能

・ 藍染めについて（5 分）・実習（25 分）・質問（10 分）

例）体育館等広場で開催する場合

バケツを増設する等、上記の内容にて持ち時間内で対応致します。



## 《事前準備ご協力のお願い》

事前に学習DVDと材料・マニュアルをお送りしますので、当日まで各クラスにて、ハンカチを輪ゴムで縛るところまでご準備してください。

## 《打ち合わせ》

事前に搬入経路や水場の確認、当日の流れについて、現場で相談させていただきます。（放課後等で1時間程度）



## 《代金とお支払いについて》

●お一人様実費 ￥1,000（税込み）＋※指導料

※指導料（100名まで＋￥300、101～150名まで＋￥200、151名以上＋￥100）。

※先生方無料。当日出席児童数でご精算します。お支払い方法：後日お振込みにてお願いします。

## 《問い合わせ》

武州中島紺屋（ブシュウナカジマコンヤ）

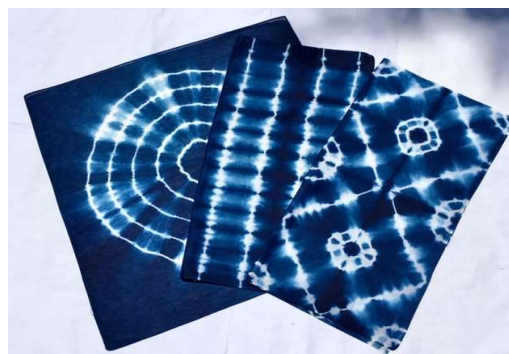
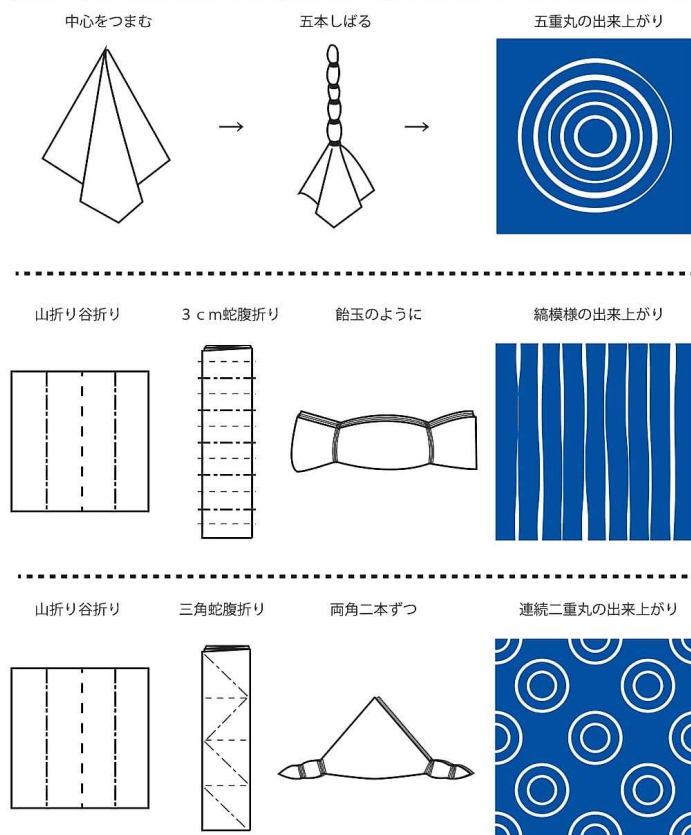
〒348-0037 埼玉県羽生市小松223

TEL 048-561-3358 FAX 048-561-3318

# ハンカチのしぼり方

5～6回巻いた部分が白い模様になります。

見本を参考にオリジナル作品を作ってみましょう。



## 《きれいに染めるコツと注意点》

見本以外の折り方、縛り方でも自由です。ただし、手の平より小さく折る、または輪ゴムを6本以上使用してグルグル巻きにすると、中心まで染まらず、広げたときに白場が多い仕上がりとなります。ある程度、藍の染料が入るスキマがあるときれいに染まります。

輪ゴムを巻く回数は、5回から多くても7回までにしてください。(太い箇所は少なめに巻きます。) 強く巻き過ぎると後で外せなくなるので注意してください。



上記の三角畳みに・・・



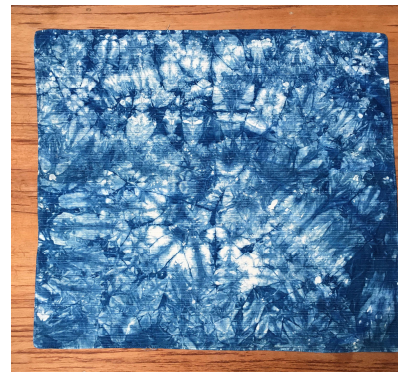
真ん中タテに1本追加する (3～4回巻く)



丸めずなるべく平らにクシャクシャにまとめる



米の字縛りでゆるめに巻くのがポイント





## 武州中島紺屋

### 創業天保八年（1837年）

初代中島鶴吉が関東で藍染めが盛んだと聞きつけて、三重から渡り職人として羽生にて染め場を開き、伊勢の技法を伝えたのが始まり。明治時代後期には、化学染料の発展に伴い藍染め産業は衰退した。その後、昭和の高度成長期が過ぎると大量消費の時代から、伝統的な手工芸品が見直され、天然の藍染めが脚光を浴び、剣道着では全国シェア70%を占めている。近年では、アパレルデザイナーの依頼を受け、ジャケット、ワンピース、ストロール、Tシャツ等の加工を受託している。また藍染め体験ワークショップの需要開拓に取り組んでいる。



## 武州中島紺屋五代目伝統工芸士（日程の都合で他の講師が赴く場合があります。）



### 新島大吾（ニイジマダイゴ）

埼玉県深谷市生まれ。

文化服装学院技術専攻科卒業後、都内レザーバッグメーカーを経て、2000年に当時4代目であり無形文化財技術保持者の中島安夫に師事。2012年国家資格でもある伝統工芸士を取得。レクサスニュー匠プロジェクト2018埼玉県代表選出。新聞や各メディアに多数出演。アパレルの加工や染直しのニーズに応えながら、小学校の体験学習を年間300校程度指導する。都内にて出張藍染め体験教室を定期的に行き、アメリカや台湾など、海外でのワークショップ実績もある。

《メディア》埼玉新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、東京新聞、繊維ニュース等

テレビ番組出演：NHK「美の壺」、「ブラタモリ」、「みいつけた！」等、民放「ヒルナンデス」、「林先生の初耳学」、「この差って何ですか?」、「昼めし旅」等

★テレビ埼玉「いまドキッ!埼玉」 2020年5月23日（土）(YouTube 動画有り)

